【編集後記】

栄華の名残 ―― 長崎「軍艦島」上陸記

夏の終わり、永年、訪れたいと思っていた軍艦島（正式地名は、長崎市高島町 端島）を旅した。軍艦島は、長崎半島野母崎の真北、長崎港から南西に 19km の沖合にある小さな海底炭鉱の島で、採炭技術の発達と共に、6 次に及ぶ埋立と護岸堤防の拡張を繰り返し、本来の 3 倍の面積となった半人工島である。

本年 2015 年 7 月、ドイツのボンで開催されたユネスコの世界遺産委員会にて、この軍艦島や、静岡の韮山反射炉等、九州から岩手まで 8 県・全 23 施設から構成される「明治日本の産業革命遺産――製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界文化遺産に登録された。（近代化遺産や産業遺産、戦争遺蹟等に興味をもっていた私は、10 年位前から、近畿産業考古学会という小さな学会に属し、和歌山市で年次大会が開催されたときは、市内に残る近代化遺産建築や、友ヶ島砲台跡等について、研究報告を行ったこともある。）

端島炭鉱の石炭は良質で、日本の近代化を支えるエネルギーとなった。1890 年、三菱合資会社が島の鉱区の権利を買い取り、本格的に操業を開始、島は急成長した。1916 年、日本最古の鉄筋コンクリート造 7 階建の高層アパートが、鉱員社宅として建設された。1960 年には、周囲 1,200m、面積 6.3ha の小さな島に、5,267 人がぎっしりと住み、人口密度は世界一、東京の 9 倍以上であった。

端島が有名になったのは、その島影・外観が、長崎で建造された軍艦「土佐」に似ていることから、「軍艦島」と呼ばれるようになったネーミング効果も大きい。（終戦間際の 1945 年 6 月、「米潜水艦が、端島を本物の軍艦と間違い、魚雷を打ち込んだ」と噂されたこともあったが、実際は、停泊していた石炭運搬船を魚雷で撃沈した。）
映画『007　スカイフォール』（2012）では、当初、軍艦島ロケを検討したが、「安全性を考慮して」、実際に軍艦島で撮影した映像をもとに、ロンドン郊外に「デッド・シティ」なるセットを建造、そこで、主演のダニエル・クレイグらの撮影を行った。作中では、「マカオ沖の架空の廃墟島」という設定であった。また、本年公開の『進撃の巨人』実写映画版では、軍艦島でロケが行われ、話題となった。

長崎港から、軍艦島の周囲を巡るクルーズ船が運航されているが、欠航や、運航するが上陸中止という便も多い。「上陸可」の条件は厳しく、悪天候――風速 5m/ 秒超、波高 0.5m 超、視程 500m 以下の「いずれか 1 つでも該当」する場合、桟橋が使用出来ず、上陸不可。実際に、数日、長崎に滞在し、日和を待ったが、渡航が叶わなかったという不運な人もいる（上陸可能日数は、年間約 100 日で、特に夏場は中止が多い）。

日本のあらゆる観光地に見られる欧米やアジアからの外国人観光客は、ここには、まだ押し寄せていないようだった。声高の中国語等の会話も聞かれなかった。私が乗船したのは、黒とオレンジ色の大胆な配色の「ブラック・ダイヤモンド号」（黒いダイヤ⇒石炭）。出港し、やがて、細長い、暗灰色のコンクリートの残骸のような何とも異様な島が見えてくると、乗船客は皆一斉に、期待と驚きの喚声をあげ、カメラのシャッターを押す。

ドルフィン桟橋を渡り、上陸。観光客用の見学施設は島の南部に限定され、他の区域へは立入禁止である。
端島は、台風等、常に高波の被害を受けてきたが、島の正面左、風雨に晒され、半ば崩壊した「総合事務所」の重厚な赤煉瓦の壁の下部に、浸み込んだ海水の白い潮の跡がくっきりと浮き出ていた。これは、晴天が数日続いた後にのみ見られるもので、貴重な光景だと、ガイドの方が話していた。

豊かな炭鉱の島、軍艦島には、その全盛時代、現代の想像を超えるインフラが整備され、生活に必要なあらゆるものが揃っていた。例えば、飲料水は対岸から 6,500m もの海底送水管が敷かれ、電力も海底ケーブルで送電された。島には、小中学校・役場・病院・派出所・郵便局・公民館・体育館・プール・テニスコート・映画館・パチンコ・スナック・市場・神社（お祭りも）、遊郭まであったという。この島には、植物が殆どなかったが、本土から土砂を運び、学校の屋上に庭園を作った（日本初）。水田も作った。まさに「超コンパクト・シティ」であった。

しかし、エネルギー革命により、石炭は石油に主要エネルギーの座を譲り、端島は 1974 年に閉山、全ての住民は島を離れた。軍艦島はタイムカプセルのような無人島と化し、そして今、世界遺産の島となった。

（谷　奈々）